

# 公 民 [ 倫 理 ] ( 100 点 50 分 )

2004 年 12 月 8 日 ( 水 ) 2 限実施

千葉県立千葉東高等学校 第 3 学年 1,2,3,4,6,7,8,9 組対象

Produced by K.Kataoka

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。

学年，組，名前を記入する。

学年，組の該当個所をマークする。

出席番号をマークする。(10 番以上は 10 の位と 1 の位の 2 カ所)

男女の欄をマークする

1.2.3 枚目のところはマークしない。

停・欠・遅・早のところはマークしない。

機械の読みとりミス確認のため、解答欄はマークの左側に番号を記入しておく。

以上が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

- 4 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

カント以降の西洋近現代思想の補習は試験最終日 12 月 13 日 ( 月 ) 午後 1 時 30 分より教室棟 2 階多目的室にて行います。

同じく試験最終日には社会科研究室前にてセンター過去問 2003 年追試を配付します。

今年の過去問補習は 16 日朝 7:20 からと、23 日 ( 木祝 ) 朝 8:30 より社会科にて実施です。

# 倫 理

( 解答番号 [ 1 ] ~ [ 50 ] )

第 1 問 次の文章を読み下の問い ( 問 1 ~ 問 1 1 ) に答えよ。( 配点 40 )

西ヨーロッパ中世の時代は、(a)スコラ哲学が、神を頂点として、神と人間、霊魂と肉体、また信仰と理性とを上下の關係に秩序づけ統一していた。これは、当時の封建的な身分制度とローマ教会のヒエラルキーが、個人を支配し、階級的に秩序づけていたことと対応している。しかし、中世も末期にさしかかると教皇権の衰退や黒死病の流行、レバント貿易などによる都市の隆盛など、中世的秩序を脅かす出来事が生じてきた。

このような時代に始まるルネサンスとは、古代ギリシア・ローマの古典文化を復興しようという運動である。これを (b)人文主義の運動ともよんでいる。人々が古典の中に見いだしたのは、教会の伝統的権威や従来への慣習に束縛されず、宇宙の神秘を探究しようとする(c)活動的な人間像であった。ルネサンスの運動は、[ 1 ]主義の神秘思想から影響を受けている。[ 1 ]主義は、自然の中に神の存在を見いだそうとする汎神論的傾向をもっており、人間の本性の内部にも神的な性質がひそんでいると説く。ルネサンスの芸術は、人体の優雅な姿を描くとともに、その背後に神秘的な雰囲気を持たせているが、これは [ 1 ]主義の自然観・人間観の影響である。

また、ルネサンスは自然の発見の時代でもあった。17世紀を科学革命の時代とよぶ場合もあるが、この時代は中世的な宇宙観にかわって科学的な宇宙観が確立されるようになった。ただし、(d)当時の自然学者たちは単純な合理主義者ではなく、神秘的直感と合理的思考の共存から生まれたものである。

南欧イタリアで起こったルネサンスにつづいて、中世から近世への転換を示すのは、北欧ドイツで起こった宗教改革の運動である。

キリスト教の歴史では、アウグスチヌス以来、神の恩寵(恵み)と救いに至る唯一の機関は教会であるという考え方が行われていた(「教会の外に救いなし」)。[ 2 ]ということばは「普遍的」「公共的」という意味であって、[ 2 ]教会が行う洗礼やミサなどの儀礼(秘蹟)を受けることによってのみ、人ははじめて神の恵みと救いにあずかることができることとされていた。これに対して宗教改革は、個人としての自己の内心をみつめることによって、中世的な教会の権威からの解放をめざすものであった。この運動の中心になったのが、(e)マルチン=ルターである。彼は1517年、『[ 3 ]』をかかげ、ローマ教皇の贖宥状について問題にし、教皇庁の在り方について、討論をよびかけた。彼の主張はたちまちドイツ全土にひろまり、さらにヨーロッパ全体をゆるがせるに至った。

問1 文中の空欄 [ 1 ]・[ 2 ]・[ 3 ]に入れるのに最も適当なものを、次の  
～のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

[ 1 ] 社会 アリストテレス 新プラトン 新古典

[ 2 ] プロテスタント オーソドックス バプテスト カトリック

[ 3 ] 95カ条の提題 キリスト者の自由 キリスト教綱要 黙示録

問2 下線部(a)に関連して、14世紀イギリスのスコラ哲学者オッカムの思想として最も  
適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[4]

神学と哲学とはそれぞれ独立した学問ではあるが、最も重大な解決は神学に求められるから、哲学的知識は制限されると考えた。

信仰と理性の内的総合を追究し、信仰の超越性と人間理性の自律性とを、緊張をはらみつつ両立させ、その後の哲学に大きな影響をふるった。

「魂の内における神の子の誕生」や「神の本質との完全なる一致」という思弁的神秘主義を展開し、宗教改革にも影響を与えた。

神の絶対的な超越性を確立し、神以外の実在の偶然性を示すため、経験論、唯名論、主意主義を展開したが、結果として信仰と理性の分極化を進めた。

問3 下線部(b)に関連して、「人文主義の父」ともいわれるペトルルカの思想の説明として、最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[5]

人間は欲すれば、何事でもなし得るとして、あらゆる学芸分野に通じることが人間の理想の姿であると考えた。

人間が主体であると同時に客体である人間中心主義的な学問は近代になってから誕生した者であり、その終焉は近いと考えた。

人間の本質を知らず、人間の存在理由や生きる意味に、何の関心ももたずに追究されるような学問は無意味であると考えた。

人間は常に我欲を満足させようとするから、為政者は恐怖や暴力によって国家を維持することがゆるされると考えた。

問4 おなじくルネサンス期の人文主義者、ピコ・デラ・ミランドラについての説明として、間違っているものを、次の～のうちから一つ選べ。[6]

人間の究極の目的は、自然の秘密を知り大宇宙の創造者である神と一致することであるとした。

人間だけは、自らの自由な意志によって、自分の欲するところのものとなるように定められているとした。

ユダヤ教のカバラの神秘思想にもとづいてキリスト教をとらえ直した。

すべての宗教的束縛を否定し、自由意志を持った人間が宇宙の創造者であり支配者であるとした。

問5 下線部(c)に関連して、ルネサンスの理想の人間像として適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[7]

遊戯人                  職業人                  普遍人(万能人)                  経済人

問6 下線部(d)に関連して、次の文[8]～[12]が説明する人物として適当なものを、下の ~ のうちから一つずつ選べ。

[8] イタリアのドミニコ会修道士、哲学者。ヘルメス主義の影響から宇宙無限論を主張した。彼は自然が生命をもつとする汎神論を説き、宇宙そのものにも動力因としての宇宙霊を認め、宇宙を巨大な生き物と考えた。彼は異端として火刑となった。

[9] イギリスの物理学者、数学者、天文学者で万有引力の法則を発見し、微積分法を創始した。いわゆる自然哲学者であるが、膨大な神学や錬金術の論稿・遺稿もあり、神学者とか最後の錬金術師とよばれることもある。

[10] 地動説(太陽中心説)の提唱者として知られるポーランドの天文学者。イタリア留学中にギリシアの古文献に触れて、サモスのアリストアルコスの太陽中心説を知り、みずからの見解を固めたといわれる。

[11] ドイツの天文学者、占星術師。太陽中心説を支持し、円運動で説明されていた惑星運動を楕円軌道であらわした。ヘルメス主義などの影響のもと、宗教的情熱をもって宇宙の数学的調和を探求した。

[12] イタリアの自然学者、天文学者。落体の法則、振り子の等時性の法則、倍率30倍の望遠鏡を用いて初めて天体観測を行い、月面の凹凸、木星の4個の衛星、太陽の黒点、金星の満ち欠け等の新現象を発見した。自然という書物が数学の文字で書かれていることを主張した。

ケプラー                  ブトレマイオス                  ニュートン                  トリチェリ  
コペルニクス                  ブルーノ                  ガリレイ                  ラボアジエ

問7 下線部(e)に関連して、ルターが信仰義認説のよりどころとした人物として最も適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[13]

アウグスティヌス                  トマス・アクィナス                  ペテロ                  パウロ

問8 カルヴァンの「予定説」の記述として最も適当なものを次の ~ のうちから一つ選べ(1994年センター本試験)[14]

恩寵を受けて救われるものとそうでないものとの区別は、この世での行為の善悪に応じて、神が決定するものである。

神はあらかじめすべての人間に救いをもたらすことを約束しており、救いとこの世での倫理的な生活とは無関係である。

救われるものと救われないものとの区別は、人間の行いによって決まるのではなく、神によってあらかじめ決められている。

人間の行為は、自由な決定によるように見えても、すべてはあらかじめ自然の必然性によって決定されている。

問9 マックス・ウェーバーの著作として適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。

[ 15 ]

孤独な群衆

無限、宇宙および諸世界について

プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 人間の尊厳について

問10 デカルトの自然観を批判したフランスのモラリスト、パスカルはこの世界をどのように表現したか、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 16 ](94年センター追試験より)

この無限の空間の永遠の沈黙は、わたしを不安にさせる。

万物は神々に満ち満ちている。

太陽は運動する星の中心にあり、父なる神と創造主の姿を具現している。

あらゆるものは、生命の流れの中にあり、生命の創造的躍動によって存在する。

問11 下にあげる文章[ 17 ] ~ [ 20 ]はそれぞれ誰の著作からの引用か。次の ~ の人名の中から最も適当なものを一つずつ選べ。

トマス・モア

ダンテ

マキャベリ

シェークスピア

エラスムス

フィッチーノ

[ 17 ]君主がとくに獣の方法をとらねばならぬ場合には、彼は狐と獅子を選ぶべきである。

獅子は落とし穴に対して自ら防ぐことはできないし、狐は狼に対して防ぐことはできないからである。(中略)人間は誠実を欠き、君主に誓った約束を守らないのであるから、君主の方でも彼らに信義を守ってはならない

[ 18 ]わたしが自分で自分を褒めましても、どこかのなにがし某といわれる学問のあるおかたや、某といわれる偉いおかたよりも、はるかに謙虚だと思えます。こういうかたがたは羞恥心が腐ってしまして、おせじの巧い詩人やほら吹き詩人をお抱え料で買収なさり、ご自分に対する褒め言葉を、つまり真っ赤な大嘘をお聞きになろうというのですからねえ。

[ 19 ]部族長の主な、あるいはほとんど唯一の任務は、腰を上げずに、ただ怠けている者がひとりもないように、皆が自分の職業に勤勉にたずさわるように、しかも荷役の動物のように朝早くから夜遅くまで絶えず働き続けて疲労しきったりすることはないようにと注意、監督することです。そのような労働は奴隷的酷使よりなお悪いからです。しかし、それが、ユートピア人以外のほとんどすべての労働者の生活状態なのです。

[ 20 ]私はベアトリーチェに導かれ、黄金の梯子に足をかけた。私の足がその第一段にかかるやいなや、すべての重力から解放たれて、私はただ、白い光が放つ強い磁力のような光だけに引きつけられて上昇した。宇宙全体が微笑む中を、やさしい歌声に包まれて、私は天を駆け昇る。聖者たちの姿が見える。聖ペトロが、ヨハネが見える。

第2問 次の文章を読み下の問い(問1～問10)に答えよ。(配点 34)

(a)フランシス・ベーコンに始まる (b)イギリス経験論哲学は、人間の心を [ 21 ], すなわち何も書かれていない書板にたとえ、知識のただ一つの源泉を感覚的な経験に求めた。

それに対して、ヨーロッパ大陸では合理論と呼ばれる哲学が展開した。デカルトはスコラ哲学に不満を抱き、数学の知識と方法をモデルとしながら、新しい学問方法の樹立を企てた。彼の著作『[ A28 ]』には、万人に平等にそなわっている [ 22 ] という能力を正しく導くための方法が述べられ、方法的懐疑の末に「考える私の存在」という、疑うことのできない知識を得た経過が描かれている。さらに、そこから演繹して、神の存在証明を行った後、数学的真理や感覚的知識への信頼を取り戻し、(c)二元論的な世界観を確立した。このようにして、感覚的経験によらない合理論の哲学が始まったのである。

スピノザは著作『エチカ』の中で、ユークリッド幾何学の方法によって哲学体系を打ち立てようとした。そこでは、少数の定義と公理から出発して、神と人間精神との本性が説明され、(d)「神即自然」ということと、人間の最高の善、人間の救済および真の幸福は神の認識と神への愛においてのみ成立するということが、幾何学の形式にしたがって演繹的に論証されている。ライプニッツは、『[ B29 ]』であらゆるものの構成要素として、モナドという分割不可能な精神的実体を論じ、(e)予定調和説を展開した。

以上のように展開した大陸合理論の思想を、カントは無批判に形而上学的思弁を展開する独断論であるとし、理性の能力の限界を明らかにする [ 23 ] 哲学を築いた。また、『[ C30 ]』では、カントは自然の因果性を超える自由の事実をみとめ、これを神、不死とならんで道徳のための要請とした。理性的存在者の道徳的行為は自由の要請のもとで、自律的な定言命法(定言的命令)に従う限りで成立すると考えたのである。

問1 空欄 [ 21 ] ~ [ 23 ] に入る言葉として最も適当なものを、次の ~ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

[ 21 ]          ホワイト・ペッパー          タブラ・ラサ  
                 センス・データ                  ケノン

[ 22 ]          良 識                  知 性                  悟 性                  感 性

[ 23 ]          唯物論                  分 析                  合理論                  批 判

問2 下線部(a)に関連して、フランシス・ベーコンの思想の説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [ 24 ]

科学的知識によって人間は自然を支配できる。

政治的知識によって人間は社会を変革できる。

宗教的知識によって人間は迷信や呪術に惑わされない。

経済的知識によって富を公平に分配できる。

問3 下線部(b)に関連して、ロックの思想[25]、ヒュームの思想[26]、バークリーの思想[27]として最も適当なものを、次の～の中から一つずつ選べ。

どれほど崇高で複雑、抽象的な観念もすべて感覚、反省の二つの窓口を通じて得られた単純観念に由来すると述べて、デカルトの認めた生得観念を否定した。

自然の奴隷としての人間が、観察と経験とに基づく自然の解明を通して自然の支配者へと反転する過程と方法を研究した。

何ものも「心の外」には、すなわち知覚を離れては存在しないとすれば、もはや物質の実体の存在を認める余地はないとした。

数学や自然科学は純粹悟性概念の協働によって確実な学的認識たりえているのであり、感性的制約を超えた対象にかかわる形而上学は、確実な理論的学としては成立しえないとした。

絶対的に確実なものを求めてすべての感覚知を否定し、すべてを疑ったのちにも「考える私は存在する」という真理は疑いえないと考えた。

因果関係から「ひき起こす」とか「力」とかいう概念を排除し、それは「恒常的連接」という関係にほかならないとした。

問4 空欄[A28]～[C30]に入れるのに最も適当な書名を、次の～のうちから一つずつ選び、[A28]を[28]、[B29]を[29]、[C30]を[30]に入れよ。

実践理性批判	純粹理性批判	単子論	パンセ
ノヴム・オルガヌム	方法序説	資本論	法の哲学

問5 文中の下線部(c)の二元論的世界観に関連して、デカルトの世界観として適当なものを次の選択肢と選択肢からそれぞれ一つ選びなさい。(センター1995追試, 1996追試改題)

選択肢 [31]

物体が原因となって、精神の働きが生まれるとする考え方。

精神と物体は、それぞれ独立した実体であるとする考え方。

精神の働きが、物質のイメージを生み出すとする考え方。

精神と物体とは、分離することができないとする考え方。

選択肢 [32]

自然を構成するのは、広い意味での魂に他ならないモナドである。

自然は、形と大きさをもつ物体及び物体間の因果作用からなる。

自然物はすべて、自らの目的を実現するために運動する。

自然現象は、火・気・水・土の四元素の混合分離に他ならない。

問6 文中の下線部(d)、スピノザの「神即自然」の説明として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[33]

精神を第一義的存在とし、物質と生命とは精神がいまだ眠り、あるいは無意識的に活動している段階と位置づける。

人間や動植物だけでなく、無生物なども含めた自然界に、広く神々の存在を認めて信仰の対象とする。

万物は精神も物体も含めてすべて神のあらわれであり、いっさいは神の内的必然によって生起する。

無限な宇宙の第一原因が宇宙霊で、それによってまとまりをもつ無限な宇宙を、神の足跡、神の展開とみなす。

問7 下線部(e)のライブニッツの予定調和説の説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 34 ]

神によって、あらかじめ諸実体の間の調和が定められているとする説。

人間は信仰によってのみ、義とされるとする説。

各個人の利己的な利益の追求が全体として社会の調和をもたらすとする説。

すべての人間の救済が、神によってあらかじめ予定されているとする説。

問8 ヘーゲルは下の文のようにカントを批判したが、その内容として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 35 ]( 1991 年センター追試 )

カントの道徳説に対して、ヘーゲルは、それが人間の共同の問題に関する見方としては一面的で理想主義的であるという批判を加えた。カントの倫理思想は人間が歴史的で社会的な対人関係の中に存在していることを軽視しているが、現実の協同的關係を貫いている合理的な秩序（法則）を認識することこそが哲学の任務であるとヘーゲルは考える。

形式的整合性を基準とした論理だけで動的な具体的な現実を割り切ることは、無理がある。

人間はかけがえのない単独者であって、普遍的法則には解消されえない。

人間は神ではなく、有限な認識能力しか持っていないから、行為の善悪を判定する基準を知ることはいできない。

人間の現実是非合理的なものであり、人間の自由意志的行為を規定する法則などは存在しない。

問9 カントのコペルニクスの転回の説明として、最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 36 ]

人間は自然の法則性を真理として認識することはできず、理性は道徳法則をたてることのみ可能である。

神中心の世界観を打破し、理論理性の認識能力と実践理性の道徳性によって、人間理性中心の世界観を確立する。

感性でとらえられる現象界を超えた、形而上学的な世界を人間は認識することができない。

客観的对象を主観が認識するのではなく、主観の先天的形式が対象を構成して認識が成立する。



問10 カントにとって、道徳的な人とはどのような人か。次の文章を参考にしながら、その事例として最も適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[37](2002年センター追試験より)

無制限に善いと思ないうるものとしては、世界の内でも外でも、ただ善き意志しか考えられない。……善き意志は……意図された目的の達成に役立つことによってではなく、ただ意志することによって、つまり、それ自体でよいのである。

(カント『道徳形而上学原論』)

Aさんはいつも他人に親切であろうと努めているが、それは、他人からも親切にされたいと考えているからである。

Bさんはある嘘をついたが、それは、自分が嘘をつけば友人が助かることを知り、友情を大切にしたいと考えたからである。

Cさんは絶望的な状況にあっても死を選ばなかったが、それは、生き続けることが人間の義務であると考えたからである。

Dさんは商売で客を公平に扱うことにしているが、それは、そうすることで信用が得られると考えているからである。

第3問 次の文章を読み下の問い(問1～問10)に答えよ。(配点 26)

政治社会の成立を個人間の契約に求め、それによって政治権力の正統性を説明する理論を社会契約説という。(a)自然法思想とともに、17～18世紀のヨーロッパにおいて全面的に展開され、国家を個人の作為とし、政治的義務の根拠を個人の選択に求めることによって、権力による事後的支配であった主権国家を、被治者の自発的結社に組みかえる近代国家の構成原理として、歴史的役割を果たした。これは、個人の間には政治権力の存在しない自然状態を想定し、各人に (b)自然権を認めるとともに、これらの個人が相互契約によって社会状態を構成すると説くものである。

(c)ホブズは自然状態を戦争状態と考え、その克服のために絶対無制限の権力が必要であるとして、各人が特定の自然人または合議体を主権者として受け入れ、自然権を[ A 42 ] することを相互に契約するとき、その間に政治社会すなわち国家が生まれると説いた。これに対して、(d)ロックは著作『[ 44 ]』の中で、まず相互契約によって社会を構成した諸個人が、多数決によって選んだ立法機関に統治を[ B 43 ]すると説き、その目的を (b)自然権の保障に求めることによって、権力に制限を加えた。

18世紀に入ると、社会生活の組織化が進み、また社会契約は歴史的事実ではない、という経験科学的批判が起こったが、その中で (e)ルソーはこの図式に新しい内容を与え、この理論の革命的意味を明らかにした。彼によれば、主権はつねに契約によって社会を構成した諸個人の全体すなわち人民にあり、この人民はそのまま立法機関として定期的に集合し、その意志を法として制定するが、その執行は別に政府を選んでこれにゆだね、しかも政府の存立は全面的に人民の信任に依存するのである。この思想は一方では、変革を目指す運動の精神的支柱となると同時に、他方では、革命期の強権的な独裁政治を正当化する根拠にもなってしまった。

こうして、(g)啓蒙思想の一分野として自由平等な個人の自然権から出発した社会契約説は、政治権力制限の理論から、人民主権の理論へと展開し、自由主義および近代民主主義の理論的骨格をつくり出して、近代国家の構成様式に絶大な影響を及ぼした。アメリカ独立宣言を起草したジェファソンが憲法を社会契約と考えて、世代ごとにその見直しを求めたのは、その一例である。社会契約説は、だいたいフランス革命の終了とともに理論的生命を失ったが、権利義務関係としての公的秩序という近代国家の機構の背景にはなお潜在しているといつてよい。

問1 下線部(a)に関連して、万物を貫く理法概念を通して自然法思想に影響を与えた哲学として適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 38 ]

ストア哲学

ウパニシャッド哲学

政治哲学

経験論哲学

問2 近代自然法の父と言われるグロティウスの著作として適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 39 ]

永久平和のために 戦争と平和の法 統治論 法の精神

問3 下線部(b)に関連して、ホッブズの主張する自然権と、ロックの主張する自然権[ 41 ]として最も適当なものを、次の ~ のうちからそれぞれ一つ選べ。ホッブズの自然権については[ 40 ]に、ロックの自然権については[ 41 ]に解答すること。

生存権 社会権 自由権 所有権 自己保存の権利

問4 空欄[ A42 ]・[ B43 ]に入る語句として最も適当なものを次の ~ のうちから一つずつ選べ。

信託 放棄 抵抗 譲渡

問5 空欄[ 44 ]にはいる書名として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。

リヴァイアサン 統治論 国富論 社会契約論

問6 下線部(c)に関連して、ホッブズの見方では、我々が一般に「道徳的」と呼ぶ行為も含めて、人間の一切の行為は全く利己心だけから説明されるが、このような説明の仕方を示す事例として適当でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 45 ](2000年センター追試より)

Aさんが慈善事業に積極的に従事するのは、自分自身の「力」を実感することによって心の内奥の劣等感を克服したいからであろう。

Bさんが、友人が困っているときでも、できるだけお節介な手助けを控えるのは、相手に自立した人間になってもらいたいからであろう。

Cさんが受信料を払うことにしているのは、放送局が経営難になって好きな番組を提供してもらえなくなるという不利益を招かないためであろう。

Dさんが店の客への対応に大いに気を配るのは、売り上げを伸ばして貯蓄を増やし、いずれは悠々自適の生活を送りたいからであろう。

問7 下線部(d)に関連して、ロックの思想の説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[ 46 ]

『寛容に関する書簡』を著し、政教分離と良心の自由を論じた。

『法の精神』を著し、三権分立を論じた。

『人間本性論』を著し、客観的真理の認識については懐疑的だった。

『マグナ・カルタ』を起草し、イギリス市民社会の基礎を築いた。

問8 下線部(e)に関連して、ルソーの著作として適当でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[47]

人間不平等起源論          エミール          一年有半          学問芸術論

問9 下線部(e)に関連して、ルソーの著作の中の言葉として適当でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[48]

人間は生まれながらにして自由であるが、しかしいたるところで鉄鎖につながれている。

人は欲しささえすれば、自分の力一つで何事でもできる。

あらゆる主権の行為、言葉を換えれば一般意志のあらゆる合法的行為は、全市民に等しく義務を負わせる。

人間よ人間的であれ、それがあなたの第一の義務だ。

問10 下線部(g)に関連して、イギリスとフランスの啓蒙思想の特徴の説明として正しいものを、次の ~ のうちから二つ選べ。[49][50](順番はどちらでもかまいません、順不同)

労働者による資本家に対する階級闘争を支援した。

教会や絶対王政などの権威と支配に対抗した市民革命を支えた。

理性中心主義を否定し、文化の相対性を唱えた。

宗教を徹底的に否定し、信仰を持つことを許さなかった。

歴史とは人類の進歩の過程であるとする傾向が強かった。

精神的なものが実体であるとする観念論が主流だった。

以 上